

未来行き列車 に乗って

ショート・ショート・エッセイ

真鍋博



未来行き列車
に
乗って

ショート・ショート・エッセイ

真鍋博

・文化出版局



未来行き列車に乗って

検印廃止

定価・六五〇円

普通送料・一一〇円

昭和四十八年八月十日・第一刷発行

著者・真鍋 博

発行者・大沼 淳

発行所・文化出版局

東京都渋谷区代々木三の二の一

郵便番号・一五一

電話・〇三(三七〇)三一一一

振替・東京一九五六七〇

印刷所・表紙 カバー 東京印書館

本文 堀内印刷

製本所・大口製本

万一乱丁落丁がありましたらお取替えいたします。

(分)0095 (製)700130 (出)7368

© Hiroshi Manabe 1973

●
目
次
●

● 未来行き列車に乗って ●

ノンビリズム

10

水平エレベーター

16

アイウエオ都市

23

幻のD-49

30

コレクションの小宇宙

38

プラス・マイナスⅡマイナス

48

空中水泳

57

美食飢餓

64

14

異変待望

18

不自然な自然

27

紙飛行機

33

四角いトマト

43

緑の怪獣

54

レジャー法

61

都市の定員

67

事件産業

案内商人

70

答えのない事典

76

人間森林

82

混色社会

89

殻なし卵

97

植物身分制度

102

情報生理

111

海洋関心開発

117

一本線交通

124

流線形のゆくえ

73

悪意の迷路

79

手づくり住宅

85

生後の世界

92

“入口”学園

99

天井替え

104

自由服

114

自分語

120

おはよう広告

126

村型都市

129

ウロウロランド

134

巨大な微少

141

描くスポーツ

146

たった一つの赤

152

着る家

158

冒険の構造

166

日曜学

175

二本のゴルフ

184

マイ・カー・ごっこ

132

三・五次産業

139

目かくし電話

144

頭脳気候地帯

149

消費の狩人

155

満腹時代

161

白い匂い

172

現代水づくし

179

平和の記号

187

大気速度

189

健康科病棟

196

適量適速

201

空気自動車

209

眠れる活字

214

理想のミルク

221

触れるクスリ

227

追い越し禁止

235

〇〇教育

240

室外のある室内

191

二つのボーリング

199

ハード・ホリデー

204

背広のなくなる日

212

広場人

219

大地のコミュニティー

224

環境フルライン

230

多忙の系譜

237

何億種類の未来

243

地球誕生以来の歴史を、一時間の映画にまとめると、人間の歴史は、わずか最後の一秒間ぐらいにしかならないらしい。

まして、日本人の登場ともなると、最後のたった〇・五秒間ぐらいだ。しかし、われわれは、その一秒間を歴史だと考え、〇・五秒間を日本史だと信じている。しかし、地球の歴史のなかで日本史を考えるなら、徳川三百年の太平洋なんて、この巨大な時間の流れのなかでは一瞬にもならないのである。

中学や高校で歴史を習うと、日本史というのは、縄文式土器の時代から始まり、奈良、平安……とつづいて、明治、大正、昭和にいたるかのように錯覚しがちだが、それ以前、数億年前、日本がまだ海の底だった時代から「日本史」は始まっている。

地図を見ると、日本列島が四つの島からなりたっていたみたいに思いがちだが、今の日本列島が形成されたのは想

像もつかぬほどの地殻変動のくりかえしの後だ。

もちろん、大陸と陸つづきだったころのことも、南方からワニやゾウがやってきたころのことも、漠然とは知っている。化石や骨や、発掘品の物的証拠が「歴史の切通し」の左右に残っているからだ。

だが、その向こうには予想も許さぬ世界がどこまでも広がっている。歴史という巨大な構築物の地下工事現場からは、大地の胎動がなりひびいてくるし、巨大な時間が轟々と音をたてて流れていて、そこはおそろしいほどの底無し沼なのだ。

「限らない未来」なんて言葉があるが、どうして、どうして過去こそ限らない。

歴史を年表のように奈良、平安、鎌倉……と見ていくのではなく、逆に飛鳥、大和、弥生式……と見ていくと、因果は因果をよび、歴史の「入口」は行けども行けども果てしなく遠く、帰れないような時間の迷路にふみこんでしまう。

そして教科書で習った歴史のトリックにあらためて気づく。年表のように、奈食時代が終わったとたんに、平安時代が始まったりはしないのだ。歴史は年表にまとめられるような個条書きのものではない。むしろ時代の切れ目に文明があり、歴史的イベントがあり、時代を大きく動かしている。歴史はけっして時代時代の「読切小説」なんぞではない。いわば時代と時代の切れ目こそ人間の歴史なのだ。

未来行き列車も、現代から未来へ、ちょうど歴史の谷間の鉄橋を渡って、現在と未来をつなぐ「現未来線」にさしかかっている。そして車窓からの眺めは、未来へ向かえば向かうほど過去性をおびて見えてくる。文明の原始林、そして情報の大草原……。過去と未来が融合し、仕事をおえて週末の旅に出る現代人と、キジを射とめて洞窟に帰る原始人が重なって見えたりもする。それは、過去と未来がけっして異次元のものではなく、同じ一本のルールに展開するものだという確信にさえなる。

未来行き列車に乗って



ノンビリズム

新幹線が、東京・大阪を三時間で結ぶようになったら、その短くなった五時間を、むこうでゆっくり使えるようにするのが、時代の進歩というものだった。

しかし、それを五時間早く帰ってこなければならぬようなイソガシ社会にしてしまったのは、時代の進歩どころか退歩というものだ。これでは新しい交通手段が登場するごとに人間はますます忙しくなっていく。

新幹線ができると生活が新幹線化するのなら、SSTができるとSST化してしまうだろう。

もともと人間は、時速四キロで動く動物なのに、いままどの交通手段も一〇〇キロ以上だから、人間はただ乗せられ運ばれるだけで、ますます物質化していく。

そしてスピード社会のなかで、人生までスピード化させつつある。

子どもは受験勉強で競争させられるし、ママは子どもを塾に通わせ、お尻をひっぱたくし、パパはモーレツビジネスを競わされるし、レジャーというとこれまたでっかいこうで早くから予定をたて、モーレツレジャーをやりはじめる。乗り物だけが猛スピードなのでなく、生き方まで猛スピードなのだ。

その反省として、ゆとりを取り戻そうという「ユックリズム」がでてきたのだ。しかし、ユックリズムはただ「のんびんだらり」ではないはずだ。スピードに背を向けるだけではゆっくりを回復できない。

しかも、一人だけゆっくりしていたのでは、受験勉強や就職試験やビジネス競争においてけぼりをくうだろう。何人かの人がユックリズムを主張してゆっくりするのでなく、世の中全体がゆっくりしなければならぬ。

しかも、そのためのゆっくりは、ただゆっくりだけでは産みだされない。

むしろ、ゆっくりにスピードがいるのである。イライラ生活をゆっくりさせるためには、どうしても速い乗り物や道路がいる。そしてそれがユックリ的手段として使われなくてはならぬのだ。

個人個人のユックリズムは、個人生活の周辺でいくらでも可能だが、都市生活におけるユックリズムは、そのための交通手段や通信システム、そして情報革命があるのである。まして社会や時代のユックリズムは、個人の次元でも交通システムの次元でも獲得できない。個人生活の手段と方法、そのための総合交通体系以上に、*「価値観の逆転」*が起こらねばならない。

そして、その結果、目的はゆっくりでも、手段はスピーディになるのかもしれない。そのユックリとセツカチが触発しあって、はじめて、ユックリズム社会が可能になる。

ユックリズムが静脈思考なら、イソギズムは動脈思考なのである。この二つがたがい新陳代謝をうながしてこそ

街や国という生きものを生きつづけさせられるのだ。

つまり、ゆっくりと大急ぎは相反するものではなく、共存していなければならない。そして移動の目的と手段でそれが自由に選べてこそ「ユックリズム」は可能になる。

また、ゆっくりできる時間的余裕をもって、ゆっくりする理由がなければ、いくらゆっくりできたって退屈するだけだ。急ぐ理由やがんばる理由はすぐ見つかるが、ゆっくりの理由はなかなか見つからないものだ。

しかも、このゆっくりは、今の社会のなかで考えるゆっくりであって、未来のゆっくりは、また別の尺度と意味をもつだろう。

ゆっくりすることを未来するためには、のんびりとスピードのバランスシートをつくっていかねばならない。

個人にとってののんびりと大急ぎは、胎内時計で計れても、社会のバランスシート、ましてや地球のバランスシートは計るものさしがないからである。



異変待望

バラ色の未来論が影をひそめ、灰色の未来論がはやって
いる。

人口爆発、異常気象、環境破壊……このままでは地球は
やがて滅亡するとか、人類は死滅するだろうとかいわれて
いる。

それは異変や滅亡を怖れるというより、むしろ異変を待
望しているようにさえみえる。

たとえば東京。過密にしろ、交通渋滞にしろ、ゴミ戦争
にしろ、解決しなければならぬ問題がいっぱいだ、対
策や改造ではもはや問題が解決しないことを誰も知ってい
るのだ。いっそのこと大地震にでも見舞われて、すべてこ
破算になって、一からやり直したほうがいいとさえ思いは
じめている。

都市のマイナーチェンジより、モデルチェンジだ。つま